

PICC外来開設のお知らせ

血液・腫瘍内科部長/ PICCチーム代表 酒井 俊郎
7階きた病棟看護師/PICC挿入特定行為研修修了看護師 庄司 理恵

今回、血管アクセスの選択肢として利便性が高い末梢挿入型中心静脈カテーテル(PICC:ピック)を当院入院中の患者様以外にも広く地域の患者様、利用者様に提供できるようPICC外来を開設とさせていただきます。

血管アクセスには末梢ルートのほか、従来型中心静脈カテーテルや中心静脈ポートが一般的でしたが、安全な留置、低い侵襲性、低い感染率といったメリットから本邦でもPICCが急速に普及しつつあります。

当院では2008年から血液・腫瘍内科での化学療法中の患者様などを中心にPICCを使用開始し、延べ1000例以上の挿入実績やPICCの臨床研究も重ねてきました。また最近ではPICC専門の特定行為看護師が200例以上の経験を積み、当院内で中心となって活発にPICC留置、管理やその教育に携わっております。

本年1月からはPICC留置・管理経験の蓄積を生かして、地域の患者様、利用者様に血管アクセスとしてPICC留置をスムーズに提供できるよう専門外来を開設いたしました。PICCは単に末梢確保困難時の輸液ルートとしての使用のみならず、末期患者様の看取り・緩和の場での薬剤投与ルート、嚥下困難患者様への高カロリー輸液ル―

ト、さらには輸血や採血目的まで幅広い使用用途にお役立ちできると考えます。正しい使用法であれば1～2年間ほどの留置が可能です。

具体的には当院地域連携室を通して血液腫瘍内科の金曜日PICC外来を予約いただき、当日は外来で診察、簡便な検査、ご説明ののち入院。午後にX線透視室でPICCを留置しその後経過観察目的の入院とさせていただきます(例えば金曜日入院、月曜日午前に退院)。またPICC留置後の管理面での御不安を払拭するために、ご要望に応じて紹介元のスタッフ様に管理方法の情報を対面や冊子での提供を行う以外にも、今後はどこでもわかりやすい情報をスマホなどの端末からの動画で情報を提供させていただくことで、安心してご利用いただけるよう整備してまいります。

国内でもまだ数少ない専門外来であり我々も至らない点はあるかと思いますが、ニーズに応じた柔軟な対応、紹介時書類の定型化など御利用施設様のご面倒が少なくアクセスできるよう準備させていただいております。血管アクセスにお困りの際はまず当院地域連携室にご連絡いただき、少しでも患者様が辛い医療・看護の提供にお役立ちできることを第一として考えてまいります。

